



みんなで守ろう

つくば市 金田台の豊かな自然

**NPO法人**

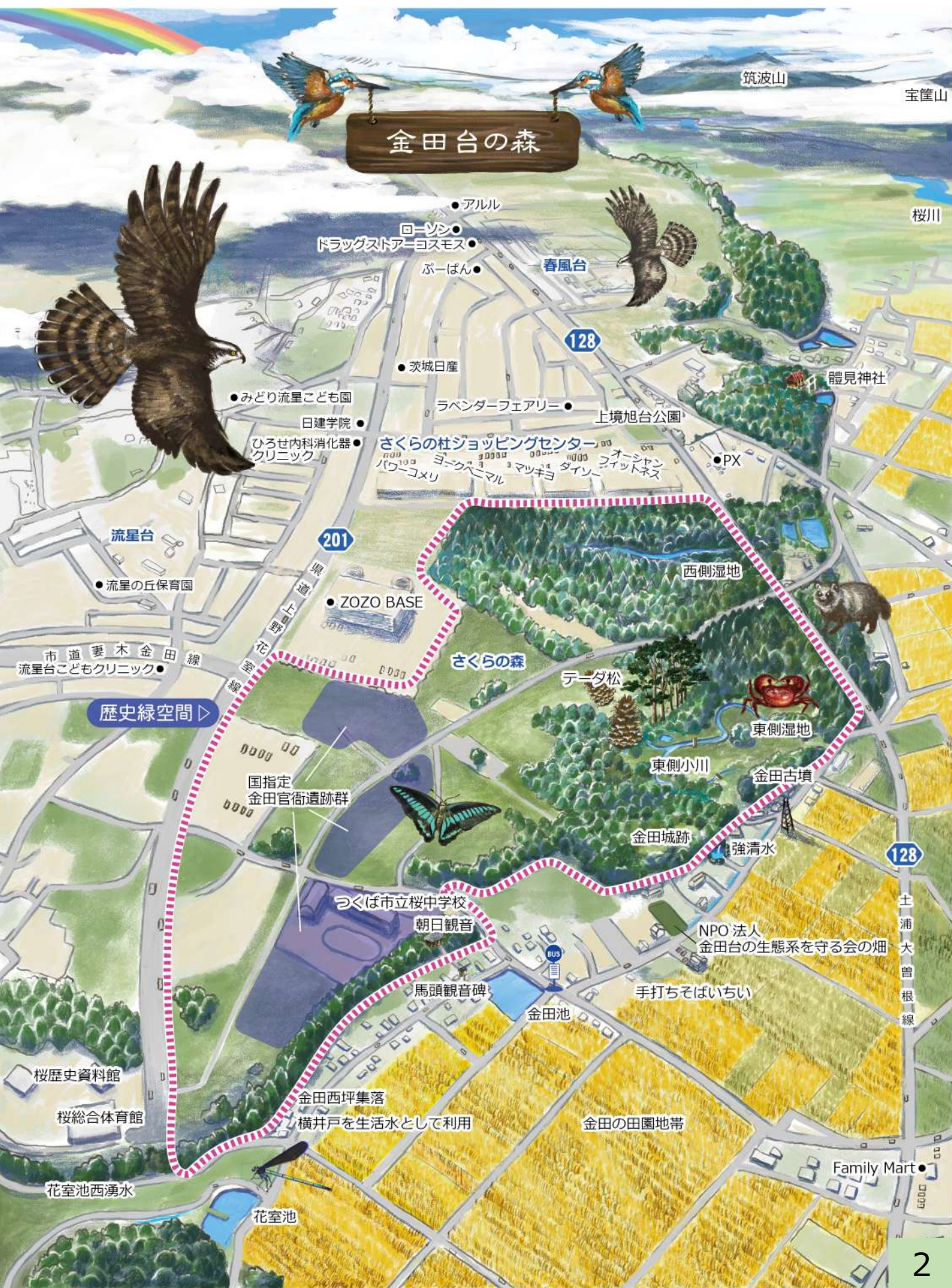
**金田台の生態系を守る会**

# 目次

金田台マップ <sup>°</sup> .....	2
1. 金田台の素晴らしさと直面する課題.....	3
2. 金田台の豊かな自然(植物、動物、野鳥).....	5
3. 金田台を支えてきた豊かな水場.....	11
4. 金田台の豊かな歴史.....	13
5. 金田台の未来のために.....	15
金田台散策マップ <sup>°</sup> .....	16
金田台の生態系を守る会について.....	17



# 金田台マップ



# 1. 金田台の素晴らしさと直面する課題



## つくば市中心からすぐ 貴重な歴史・緑空間

金田台(こんだだい)の森は、つくば駅から北東へ約4km(車で約8分)のところ南北に広がっています。筑波台地の縁にあり、その下には田園が広がっています。花室川と桜川に挟まれた金田台の台地では、流れる湧水が生き物を育み、これまで人と生き物の営みが繰り返され、多くの史跡と豊かな自然が残っています。つくば市が歴史・緑空間用地として管理する地域です。

## オオタカが住む豊かな自然

金田台には、オオタカやサシバなどの猛禽類(もうきんるい:タカやフクロウ類など)が生息・繁殖しています。生活のためには、まとまった林、畑、田んぼが必要で、金田台には豊かな自然環境が残されていることがわかります。これらのエサとなるハト、スズメや他の小鳥、ヘビやカエル、トカゲなどの他様々な昆虫が生息しています。小川や湧水もあり、オニヤンマなどのトンボ類やカゲロウなどの昆虫幼虫や小型の魚類やカワナなども観られ、これらの動物を支える多様な植生も残っています。

→2項、3項参照



## 縄文時代から続く豊かな歴史

金田台には貝塚や古墳、奈良時代から平安時代の官衙遺跡(役所の跡)、戦国時代の城(戦国大名小田氏の出城の一つ金田城=館山城)などがあり、古くから政治・文化の中心でした。

今でも史跡の跡がいくつか残っており、当時の営みに思いを馳せることができます。金田城に続く道からは、金田の水田地帯を一望することができます。

→4項参照

# 1. 金田台の素晴らしさと直面する課題

## 金田台の自然が直面する課題

豊かな自然が残る一方で、以下のような様々な問題に直面しており、皆で協力して解決していく必要があります。

### ● ゴミのポイ捨て、不法投棄

空き缶、ペットボトル、タイヤなど様々なごみが捨てられており、有害物質による土壌、水質汚染も懸念されています。



### ● 開発による森林面積の減少

大規模な開発により、森林面積が大きく減少しています。鳥など生き物たちの生息域が狭められました。



2015年3月の金田台周辺



2021年1月の金田台周辺

### ● 放置された森林

金田台の森は、2019年4月から市の所有となりましたが、まだ整備方針が決まっておらず、手入れがされずに倒木や雑草が道をふさいでいるところもあります。森の動植物調査のために歩けるように整備活動を行っています。



### ● 外来種問題

金田台の森でもアカボシゴマダラ(チョウ)やウシガエルなどの外来種が侵入しています。オオブタクサが拡大している場所もあり、筑波大学の専門家の指導で雄花・雌花の部分を除去して二重のごみ袋に入れて燃えるごみとして処分するなどして対応しています。



## 大切な金田台を守るために

つくば市中心からすぐという素晴らしい立地の中で、豊かな自然と歴史を育んできた金田台。この貴重な自然を守り、次世代に遺していくために、わたしたちに一体何ができるのでしょうか？

それを考える第一歩として、金田台の森を訪れ、その豊かさに一緒に触れてみませんか？ 金田台の生態系を守る会では、昆虫・植物・野鳥の観察会などを開催し、皆さんの参加をお待ちしています。

→5項参照



## 2. 金田台の豊かな自然(植物)

金田台には昔ながらの里山の動植物が残っており、  
開発前のつくば市の様子を知ることができます。  
四季折々に観られる草花をご紹介します。

春



シュラン



スミ



ジュウコヒトエ



フデリンドウ



ヤマツツジ



ウワミズザクラ

夏



クマノミズキ



クララ



ヤマユリ



ハナイカダ



ワレモコウ



キツタ

秋



クサギ

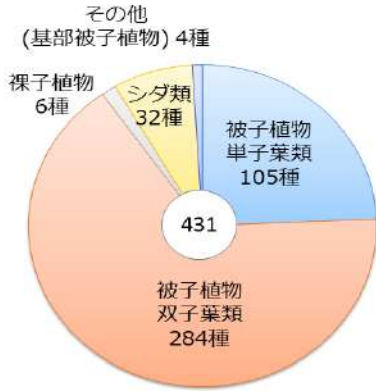


ムラサキシキブ



カラタチバナ

金田台樹林地には、被子植物・裸子植物・シダなど様々な植物が観られます。



定期的に動植物のモニタリング調査を行っており、詳細なリストは当会のウェブサイトからダウンロードできます。



## 植物っておもしろい

【植物の観察】 どこにでもある植物でもよく見るとおもしろいことに気づかされます。

### ヤブガラシ (藪枯らし)

やぶを枯らすほど盛んに繁茂することによります。別名貧乏葛。花弁は緑色で4個あります。朝開花し、午前中に花弁と雄しべが落ちると、花盤はオレンジ色からピンク色になります。カラフルな花盤が広告塔の役目を果たし、特別な口吻がなくとも蜜が得られるので、ハチやチョウなどの昆虫がたくさん集まる、誰でも来て下さい型です。



花盤上に広がる蜜

### マツヨイグサの仲間

金田台ではメマツヨイグサ・コマツヨイグサなどが観られます。これらのマツヨイグサの仲間は長い筒の奥に蜜があり、夜でも目立つように明るい黄色の花びらと強い香り、長い口吻(こうぶん)を持つ蛾を呼び寄せています。



【草花遊び】 金田台に観られる草花で遊んでみましょう。

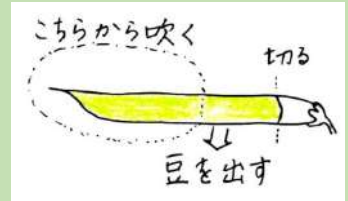
### ジャソヒゲのスーパーボール

名前は細い葉を蛇や竜のひげにたとえたものです。青い実の中の乳白色の種子はよくはずむので、こどもが投げつけてスーパーボールのように遊べます。



### カラスノエンドウのピーピー笛

エンドウ豆のような種ができ、熟すと黒くなります。別名ヤハズエンドウ。吹き口を切り取り、さやの片側を開いて中の豆を取り出します。吹き口をくわえて吹きます。



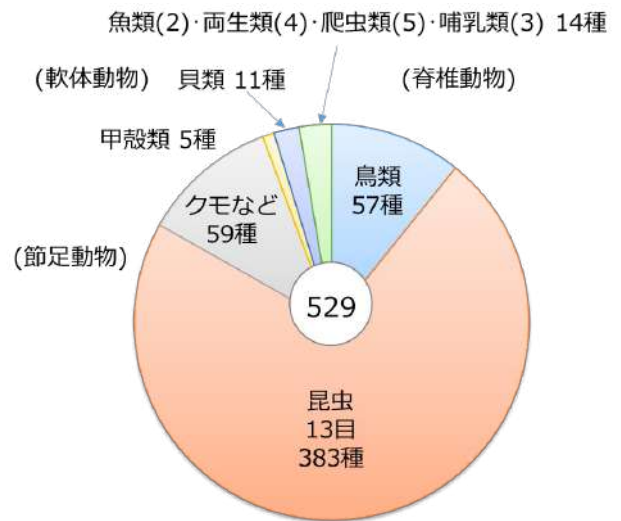
## 2. 金田台の豊かな自然(動物)

金田台には、様々な動物が生息しており、特に多様な昆虫が観られます。

これまでの調査(右図)で、昆虫・クモ・甲殻類(エビ・カニの類)など節足動物は447種を観察しました。全記録の85%を占めます。

次いで野鳥(57種)などの脊椎動物を多く記録しました。野鳥以外では、イノシシ、アライグマ、ニホンウサギの哺乳類3種、ヘビ、トカゲなど爬虫類4種、両生類のカエル4種、ドジョウとモツゴの魚類2種です。

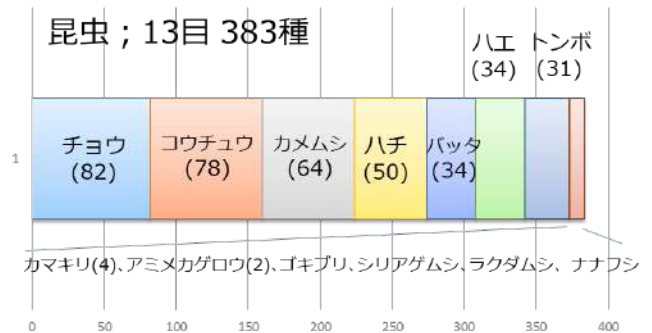
軟体動物・貝類は、陸棲7種(かたつむりやナメクジなど)と水棲4種(タニシ、カワニナ、シジミ)です。



2021年12月まとめ

森を豊かにしている生き物に、菌類やバクテリアなど目には見えない微生物があることを忘れてなりません。

そして、それら微生物や植物たちを育む土壌もとても大切なもの・資源です。



## 金田台の森にすむ昆虫やクモ

昆虫やクモは、森や野原の主役です。



ツバメシジミ



ムラサキシジミ



コチャバネセセリ



ヒカゲチョウ



ヒロオビトンボ  
エダシャク



オスグロトモエ



オオアオイトンボ



シオカラトンボ



アオドウガネ



ナナホシテントウ



ヒメジウジ  
ナガカメムシ



オオホシカメムシ



ベッコウバエ



クビキリギス



ミカドガガンボ



ヤマトシリアゲ



オオカマキリ



ナナフシモドキ



コガネグモ



ジョロウグモ



## 【身近なチョウたち】

- シロチョウ、アゲハチョウ、シジミチョウ、タテハチョウの仲間が、金田台でもたくさん観察記録されています。一年のうち4月から10月頃まで、これらのチョウ(成虫)たちを観ることができ、その多くはほぼ2か月内で卵から成虫への一世代を年に3〜4回くり返しているようです。また、成虫で越冬するチョウたちもいます。
- チョウたち幼虫の食草はさまざまです。モンシロチョウの幼虫アオムシは、キャベツなどアブラナ科植物、ナミアゲハの幼虫はサンショウやカラタチなどミカン科植物の葉を食べて育ちます。そのほか、シロツメクサなどマメ科植物はモンキチョウ・キタキチョウ・幾種かのシジミチョウが、ミツ葉・ニンジンなどセリ科はキアゲハが、またヤマトシジミはカタバミに産卵、キタテハはカナムグラに産卵するなど、それぞれに固有の食草があります。



モンシロチョウ



キタキチョウ



ナミアゲハ



アオスジアゲハ



ベニシジミ



ヤマトシジミ



ウラギンシジミ (冬ごもり)



キタテハ

- 小学3年生の春学期にモンシロチョウやアゲハを育て観察する学習があります。
- モンシロチョウはキャベツの葉などに卵をうみつけ、ふ化した幼虫アオムシは葉を食べて育ち、4回脱皮をくり返し、さなぎ、成虫になります。ナミアゲハはミカン類の葉を食べ、同じく4回脱皮し、さなぎ、成虫になります。(大日本図書教科書「たのしい理科3年」より)

## 【国蝶オオムラサキ】

- 2020年6月下旬に金田台でオオムラサキ(成虫)を観察記録しました。オオムラサキはタテハチョウ科の羽をひろげたときの長さ5センチを越す大型のチョウです。成虫は、クヌギ、コナラ、ニレなどの樹液やクリやクサギの花の蜜を吸います。国蝶と呼ばれます。
- オオムラサキ幼虫の食樹はエノキです。卵がかえった幼虫は夏から秋にかけてエノキの葉を食べて育ち、冬場に地面におりエノキの根際の落葉の中で越冬します。春休眠からさめるとエノキの樹に登り葉を食べて成長を続けます。その後さなぎになり6月から7月に成虫となって成熟、交尾、産卵し、9月頃に一年間にわたる一生を終えます。
- 規模がやや大きめの雑木林に棲みます。かつて各所の林で見かけられたそうですが、住宅開発や工業団地開発で雑木が大幅に減ったため観ることが珍しくなりました。
- 近縁種でタテハチョウ科の移入個体群アカボシゴマダラ(特定外来生物)の幼虫が、同じくエノキを食樹としています。アカボシゴマダラは、春と秋の2回羽化発生します。市街など人工的な環境へ適応力も高いようで、近年目立って観られるようになってきました。



オオムラサキ  
(2020/6/21)



オオムラサキ  
(2020/6/21)



オオムラサキ  
(さなぎ)



アカボシゴマダラ  
(2021/5/23)

## 【秋を代表する昆虫「赤とんぼ」】

- 唄にうたわれる「赤とんぼ」はアキアカネをさすと言われています。アキアカネのほか秋に赤くかわるトンボにナツアカネ、マイコアカネ、ノシメトンボ、属が少しかわりますがショウジョウトンボなどが、金田台でよく観られます。雄が特に色濃く赤化します。
- 代表的なアキアカネは、1年で一世代をくり返すトンボで、春に卵からかえった幼虫(ヤゴ)が 初夏の夜間に羽化し成虫になります。夏の暑さをさけて標高の高い山地に移り成熟します。秋となり涼になった平地に戻り、群れをなして生活し、たんぼやため池に卵を産みつけ、11月末ころに一生涯を終えます。卵は水中や泥中で冬を越し、次の世代をくり返します。
- ナツアカネはアキアカネとたいへん似ています。見分け方は、胸部の二条縞の形のちがいで区別できるとされています。ナツアカネはアキアカネとちがいで、山地には移らず、羽化地近くの湿地や近接する林で夏を過ごします。秋に雄は頭・胸・腹とほぼ全身が赤化します。
- ノシメトンボは赤トンボのうちで最も大きくなる種の一つです。翅(はね)の先端が褐色に縁取られているのが特徴で、街の公園や近郊の田畑でも観ることができます。ショウジョウトンボの雄は真紅というほどに赤くなります。沼や池などの水辺に棲んでいます。C



アキアカネ



ナツアカネ



ノシメトンボ



ショウジョウトンボ

## 【オニヤンマの一生】

- オニヤンマは国内で最大のトンボで、小さな水の流れ(細流)の水辺や林縁を好みます。金田台では東の谷津・湿地でよく観察されます。
- 胸腹部が黒色地に黄色縞模様が特長です。ヒトの目にふれる成虫期は、7月から10月の2~3か月とほんの短い期間です。
- 幼虫(ヤゴ)は細流の砂・泥・礫の中で3~4年過ごし、約10回の脱皮ののち成虫になります。1か月ほどかけて成熟、交尾・産卵し、約5年の一生涯を終えます。
- トンボは基本的に肉食です。特にオニヤンマ成虫は体が大きく、虫を捕えて食べる量が多く力も強いですので、セミやアブ、スズメバチさえ捕え食べてしまいます。そこからスズメバチの天敵の一つに数えられています。



羽化の始まり



小さな水の流れ



オニヤンマのヤゴ



キイロスズメバチ



ほぼ成虫に!

オニヤンマの羽化

## 【金田台の森で自由研究をしよう!】

- 金田台には、小学生にも人気の様々な生き物が住んでいます。
- どのような場所にどのような昆虫が生息しているのか、分布を調べたり、捕食の様子を観察して撮影したり、様々な研究ができるでしょう。
- 会のメンバーのお子さんが金田台のチョウの分布について自由研究をした例もあります。皆さんもお子さんと身近な自然を研究してみませんか?



## 2. 金田台の豊かな自然(野鳥)



オオタカの親と雛

金田台での当会のモニタリング調査で野鳥は57種確認されています。



フクロウ

- 金田台の生態系を守る会は「中根・金田台(なかこん)地区(現在の春風台・さくらの森・流星台)」の開発中にオオタカの営巣を確認したことからスタートしました。
- 10年余り続いた「貴重動植物生態調査委員会」は、つくば市に対し「猛禽類(オオタカ・サシバ)は、地域の生態系の食物連鎖の頂点に位置し、豊かな生態系の指標となる種である。今後も公的管理予定地等を活用しながら、猛禽類の生息環境の保全に配慮すること。」とし、貴重動植物の生息環境の保全に努めることが望ましいと提言をまとめています。



サシバ

渡りのタカで、春にやって来て、主に田園地帯で狩りをします。

餌になる虫・トカゲ・ヘビ・ネズミなどがなくなる初秋にまた東南アジアへと渡って行きます。



サンコウチョウ

初夏、林内で出会うと、鳴き声とオスの姿のきれいさに心をうばわれます。

円錐状の巣から顔を出している姿は、とてもかわいらしいです。



ベニマシコ

小さくて、ピンク色をしたかわいらしい小鳥です。

散策会などで、冬によく観られる鳥です。



アカゲラ

キツツキと呼ばれている種で、木に穴を開ける際、ドラミングという音を軽快に出しています。音の違いをコゲラと比べてみてください。



カワセミ

ジーツと池の近くで待っていると、鳴き声がして、狩りの姿をよく見かけます。とてもきれいな鳥です。



カシラダカ

野鳥観察は、枝葉が落ちた秋冬に見つけやすいのですが、このようなときにスズメと一緒にいる(混群)ところがしばしば観られます。

### 3. 金田台を支えてきた豊かな水場

#### 水を工夫して大切に利用してきた金田台

- 金田は桜川(旧鬼怒川)の低地に位置し、字の通り“黄金の波打つ水田”で、米の生産地となっています。
- 金田台は名前の通り**台地**です。台地は洪水の危険性がなく、生活する上で安全であるので、遺跡などは台地の上や低地に近い**縁辺部**(とくに貝塚は)にみられます。筑波山の南側一帯は、気候が穏やかで、自然災害(風水害、土砂災害、地震災害など)が少なかったのです。
- しかし、台地では水が得にくいという難点があり、人々は水の得やすい台地の縁辺部か、台地と低地の境界の崖線や斜面の下に居住し、水は湧水や井戸を利用してきました。金田でも湧水のでる地域は、“清水”という小字(こあざ)が付いている所があります。
- 古くは花室大池(現在は埋め立てられている)からの導水、そして崖沿いでは横井戸が掘削され利用されてきました。横井戸は現在でも雑用水として大事に利用されている貴重な文化遺産です。西坪集落の横井戸は、横穴を掘削して、地下水面に到達して、湧き出してくる地下水を集水・流下させて利用するので、構造上は人工的に造った湧水といえるでしょう。地域住民が水汲みに訪れる強清水も横井戸を利用したものです。



東谷津の湧水



横井戸



強清水



金田池

- 台地には樹枝状に谷(谷地、谷津、谷戸などと呼ばれている)が発達しています。これは台地に降った雨が浸み込んで地下水となり、低地に向かって流れ、湧水となった地点から浸食が始まり、台地中央部へと広がった谷です。谷の下流には流出してくる水を貯留する“ため池”(金田池など)が多くの場合存在しています。
- 谷地・谷津は水田として利用されてきましたが、近年は放棄されるものが多く、荒地、湿地となっており、ところが多いのですが、動植物にとっては、貴重な“水場”(住处、菜食・採餌)となっています。湿地・荒廃地の乾燥化、富栄養化プロセスとして草地・森林への移行も進行すると考えられます。
- 湧水の下流は湿地となっていることが多く、湧水湿地と呼ばれています。
- 金田台の荒廃した谷津田の復元や、湧水湿地の保全是、生態系保全の上で最も重要な課題です。

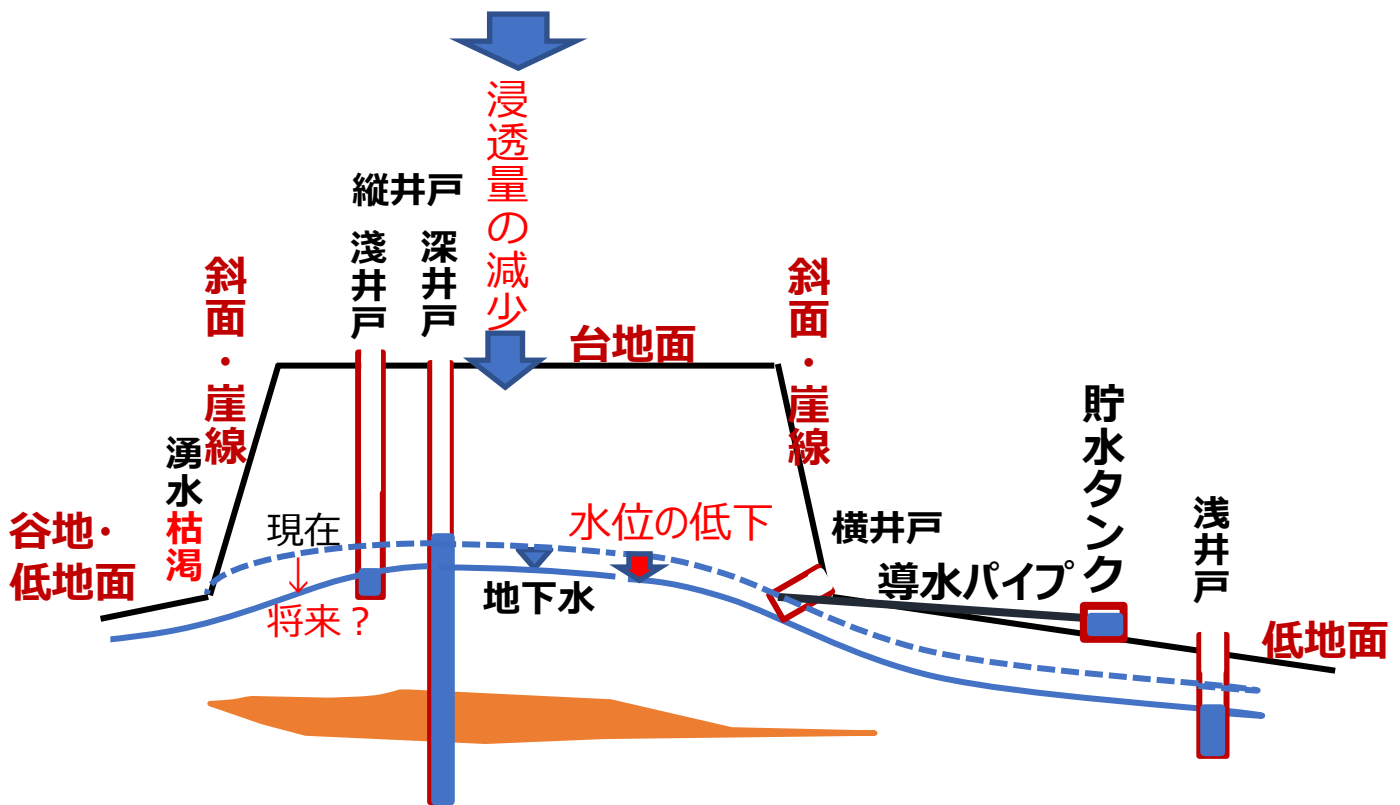


横井戸群のある西坪集落

### 3. 金田台を支えてきた豊かな水場

#### 金田台の水を保全するために

- 開発に伴い、金田台流域の上流部は森林・畑地の住宅、商工業施設化などにより、雨水が地面に浸透しない面積が広がり、雨水は排水路により遊水池(調節池)・河川へと流出することになります。
- この地下に浸透する雨水量の減少により、地下水の水位の低下、そして湧水の消滅や井戸の水位低下・湧出量の減少・枯渇が発生する可能性があります。また、谷地・谷津の乾燥化の加速も懸念されます。これらを防止するためには、雨水を地下へ戻す、浸透させることを意識的・積極的に行う必要があります。宅地や駐車場などはコンクリート舗装などでなく、雨水がしみ込むような工夫が望まれます。



水場を好むマムシもいます



金田池の弁天様



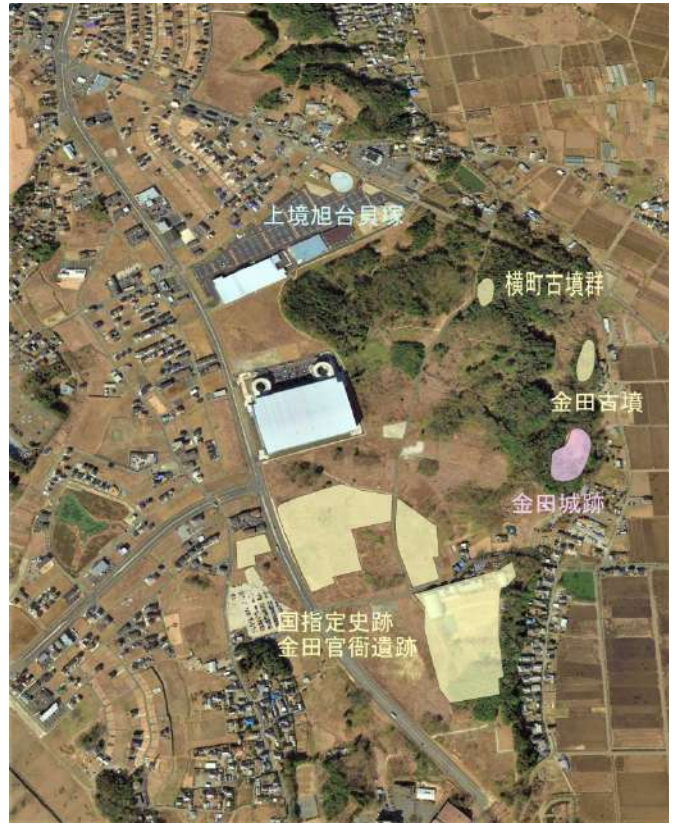
湧水湿地

# 4. 金田台の豊かな歴史

金田台とその周辺では旧石器時代や縄文時代の遺物が出土し、古代の金田古墳や国指定史跡金田官衙遺跡、中世の金田城跡など遺跡が集中しています。金田台の代表的な遺跡を年代順にたどってみましょう。

※地図中の遺跡の色は年表の時代の色に対応しています。

年代	時代	時代指標	
約4万年前	原始	旧石器	遺物
約15000年前		縄文	
約2400年前		弥生	
約1700年前	古代	古墳(飛鳥)	古墳
		奈良	
7世紀	中世	平安	文献
8世紀			
9世紀			
10世紀			
11世紀			
12世紀	鎌倉	南北朝	政権所在地
13世紀			
14世紀			
15世紀	室町	(戦国)	安土桃山
16世紀			
17世紀	近世	江戸	
18世紀			
19世紀	近代	明治	元号
20世紀			
21世紀	現代	大正	
		昭和	
		平成	
		令和	



「つばの遺跡と発掘調査」  
(提供：つば市教育委員会)

## 上境旭台貝塚

縄文時代の遺物が上境旭台貝塚付近から出土しました。  
**上境旭台貝塚公園**の地下には貝塚が保存されています。  
(右写真 奥はさくらの杜ショッピングセンター)



**上境旭台貝塚**

●上境旭台貝塚と周辺の遺跡

上境旭台貝塚は、つくば市の東部、板川石原の標高約1〜27mの台地上から、低地にかけて広がっています。

縄文時代後・終期(約4,000〜3,000年前)の縄文遺物を伴う遺跡です。当遺跡の周辺には、支那の金を採ったと推定される縄文時代後期の銅産地である中野中谷津遺跡、南部には奈良・平安時代の河内国高市郡や藤原郡に設定されている金田古津遺跡・金田西坪古津遺跡・丸尾塚古津遺跡があり、金田官衙遺跡として国指定史跡となっています。

●上境旭台貝塚の概要

発掘調査によって、台地上から発掘された縄文時代の土器や土器、石器からなる遺跡、新石器には不変になった土器や石器、縄文時代の貝や魚・鹿等の骨を露出した土の層、湧水のある砂層は水層として利用していたことがわかりました。

貝塚とは、ヤマトシジミを中心にしたマガリ等の貝殻が堆積しており、当時の古墳や塚とそこに投入していた形や貝殻の採取地であったと考えられます。この他に、土器、土器や土器に關わる道具やアクリル、マツリに使用したとみられる土器・石器等が出土しています。特に縄文時代のミミズク土器や陶器類のオオツタノハ製の貝殻は、他の少ない遺品です。後世からはツルミやトキノミ等の遺品類のほかに、水筒や土器の破片や鹿等の骨が出土し、縄文時代の水筒・釜や、土器類の破片も出土する遺品も出土しました。

当遺跡からは、縄文時代後期の土器や土器の破片が出土しており、製法運動を行っていた可能性も考えられます。また、製法の異なる土器や土器であるオオツタノハ製の貝殻などの存在からも、当遺跡が内陸部と沿岸部を結ぶ交通の要所であったことがうかがえます。



土器



石器・石鏃



貝塚の遺跡

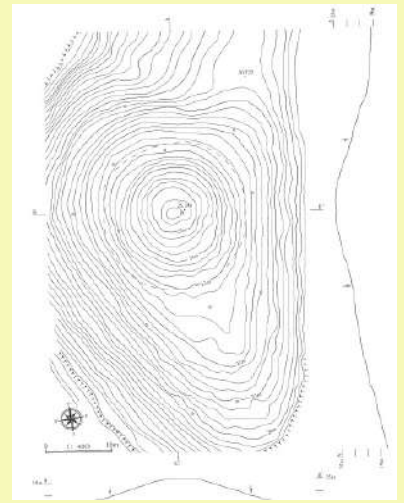
出土：公益財団法人 茨城県教育財団

埋められた谷にはヤマトシジミを中心に貝殻が堆積していました。  
詳しくは現地の解説板をご覧ください。

遺物写真提供：茨城県教育財団

## 金田古墳

- 2011年の筑波大学による測量調査により、円墳(直径20m高さ2m)とされています。南方の台地に連なる細長い舌状台地が切斷され島状になったと考えられています。
- 発掘調査によるものではありませんが、石棺、鉄刀、石製模造品が出土したと伝えられ、その特徴から5世紀後半から6世紀前半のものと考えられています。現在はつくば市桜歴史民俗資料館に保管・展示されています。
- 低地からは5m以上の高さがあり、ドングリのなる木々におおわれています。整備をすれば見晴らしを楽しめる場所になるでしょう。



「金田古墳測量図 筑波大学先史学-考古学研究 第23号」(2012)

## 国指定史跡 金田官衙遺跡

- 金田官衙(かんが)遺跡は奈良・平安時代の河内郡役所跡と考えられ、政務を行った政庁や国司が宿泊した館、厨房である厨等を含む官衙域、税として納められた米を貯蔵した正倉院に加え、郡役所の近くに造営されることが多い寺院がセットとなって発見されています。
- 9世紀中頃までに竪穴住居跡が全体に広がることから、その頃には郡役所としての役割は終わったと考えられています。
- 金田の低地には古代の土地制度である条里制の地割りが1970年代まで残っていました(下記航空写真参照)。湧水を活用して米の生産地として開発されたことがわかります。



金田官衙遺跡北側建物群  
(提供:茨城県教育財団)



1975年 国土地理院空中写真に地名を追記

※現在は、官衙の遺構は保存のために埋め戻されています。条里制の地割は、区画整理が行われたため、見るできません。

※発掘された遺物の一部はつくば市桜歴史民俗資料館で展示されています。



金田官衙遺跡(九重東岡廃寺)出土瓦

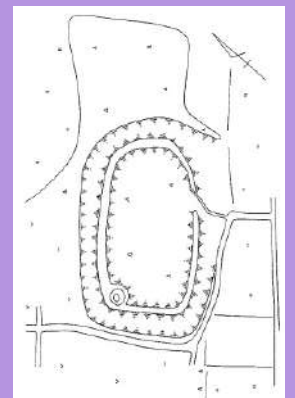


金田官衙遺跡出土「厨」墨書土器

「古代つくばの郡役所」  
(提供:つくば市教育委員会)

## 金田城跡

- 金田城跡は一重の深い堀・土塁で囲まれた城館跡です。鎌倉・室町時代の小田氏の出城で城主は代々沼尻氏であったと伝わっており、江戸時代までには廃城となったとされています。
- つくば森林クラブの活動により竹藪が整理され、広い空間ができました。物見台らしき高所から下を眺めて戦乱の頃の様子を想像してはいかがでしょうか？サンコウチョウ、オオタカ等鳥たちの声が聞こえることもあります。
- 強清水城という別名が示すように、東崖下の湧水は近隣の方々に利用されています。



金田城跡略測図  
(提供:茨城県教育委員会)

## 5. 金田台の未来のために

豊かで貴重な金田台の自然環境を守り、次世代で継承するために、わたしたちには何ができるのでしょうか？難しいことは考えず、まずは簡単な一歩から初めてみませんか？

### Step1 観察会に参加する

「金田台の生態系を守る会」では、月に1度モニタリング調査を、年に数回、昆虫・植物・野鳥の観察会を講師の先生を招いて実施しています。金田台の森に人々が集まり、自然に触れて心豊かな時間を過ごしてもらうことは、森林を整備するメンバーにとって大きなモチベーションとなっています。皆さんの参加をお待ちしています！



### Step2 興味を持ち学ぶ

「金田台の生態系を守る会」では、観察会や散策会のほか、講師の方を招いて歴緑カフェを開催し、動植物、水場、歴史や生物多様性保全、SDGsなど様々な学びの機会を提供しています。学ぶことで金田台の価値がより深く理解でき、自然を守ろうと思う気持ちが高まります。



### Step3 自然を守る行動をする

外でゴミを捨てない、できるだけ雨水を地面に浸透させるといった普段の生活でできることから、動植物のモニタリング調査に参加する、子どもたちや友人に金田台の自然について伝え観察会に誘う、ゴミ拾いや森林整備に参加する、様々な活動が金田台の自然を守ることに繋がります。



将来的には、金田台の森を整備し、ハイキングコースや虫取り、自然や歴史に触れる憩いの場にできたらと考えています。

危険や不法投棄の問題など、人々に森を開放することで生じる様々な問題がありますが、一歩ずつ前に進みたいと思っています



**金田台の自然に触れ、楽しみながら未来に遺していきましょう！**



# 金田台散策マップ



散策コース例：

▶：ビューポイント

- A) 駐車場 → 金田城跡南側 ▶1 → 強清水 → 谷津入口切通し → 金田古墳  
 → 谷津・小川 ▶2 → テーダマツ・ハリギリ広場 ▶3 → ゲート → 駐車場
- B) ↓  
 クヌギの森 ▶4 → 金田城土塁 → 分岐点 → 駐車場

## ビューポイント：

- ▶1：草野原を抜け木立の中を進むと、間もなく「土塁コース」との分岐点に着きます。そこから林間のゆるい下り坂が始まり、金田城跡東端まで来ると急に視界が開けます。いにしへの金田条里を思い浮かべつつ、水田が広がる美しい桜川低地を見渡せます。
- ▶2：東入口に入り、金田城跡と金田古墳を両側に見つつ切通しを抜けると、周囲を木々に囲まれた湿地が目前に現れます。かつて谷津田が営まれたその湿原の中を、涸れ沢と湧水池を源とする流れ(小川)に渡した二つの木橋で越え、進んでいきます。
- ▶3：小さな流れをわたりしばらく林内を進み右へ折れると、少し急な登り坂が始まります。ほぼ登りきった辺りでテーダマツの高木が現れます。その近辺を樹木植生の観察場所「ハリギリ広場(仮称)」として切り開きました。今後、植生調査を行っていきます。
- ▶4：谷津の切通し近くから南方向に向け分かれ道を登り始めます。間もなくもう一つの樹木植生の観察場所「イヌシデ・クヌギの森(仮称)」に着きます。その脇道を登り、右手に谷津の沢を左手に金田城跡の空堀(からぼり)をみて土塁上へ道は続きます。林内の道をたどるとほどなくして分岐点に着きます。スタート地点の駐車場は、もう間近です。

# NPO法人「金田台の生態系を守る会」のご紹介



NPO法人 金田台の生態系を守る会  
住所：つくば市さくらの森19-8  
TEL：090-3476-7814  
Mail：info@kondadaiseitaikei.com

## 「金田台(こんだだい)の生態系を守る会」は、

茨城県つくば市にある「金田台」という場所の自然保護を目的とした活動団体です。

金田台の魅力的な自然環境を保全し、次世代へ継承し、持続可能な社会の実現に貢献することを目的に様々な取組を行っています。「金田台の生態系を守る会」では、自然体験を分かち合い、ともに楽しむとともに、森林や生き物を守っていく仲間を募集しております。

## 自然観察会

つくば市中心部は都市開発がすすみましたが、金田台ではかつての里山の動植物を観察できます。親子連れなどで気軽に自然と触れ合える観察会を開催しています。



## 動植物のモニタリング調査

金田台の決まったコースに沿って2017年9月から毎月動植物のモニタリング調査をしてきました。

調査記録のデータ（維管束植物一覧）はウェブサイトからダウンロードすることができます。一部地域については10m四方の区画ごとに木の分布、樹種、胸高直径、草本植物を調べて右のような樹木分布図を作成しています。



## 森林整備活動

多くの生き物が生きられる森づくりをめざして森林整備をしています。チェーンソーや刈払機以外の手作業も多いので、皆様のご協力が大変助かります。自然と触れ合いながら仲間たちと汗をかいて作業するのはとても気持ちがいいです。また、枝や丸太を引き取ってくださる方もお待ちしております。



## 学習活動・研究への協力

専門家を招き、湧水や生物多様性に関する学習会を開催しています。また、筑波大学による土壌調査等に立ち合い、インターン生を受け入れ、会の活動に協力してもらっています。

このような活動の中で、都市開発による地下水の減少が生物多様性にも影響することがわかりました。家庭で協力できることに対する学びの機会にもなりますので、ご参加いただければ幸いです。



## 無農薬栽培

金田台樹林地のすぐ近くで、外国人研究者等が、2～3年のつくば滞在の中で野菜作りを楽しんでいます。無農薬で畑作物を栽培しています。



## 【会員・賛助団体のご案内】

### ■ 会員、賛助団体を募集しています！

正会員は、各種イベントをはじめ、観察会、調査などの活動を主とした会員です。

(正会員の参加費は無料で、活動される際の保険料は会で負担いたします。(2022年度現在))

畑会員は、当会で借りている畑で無農薬の野菜を栽培する活動を主とした会員です。

賛助会員は、当会の趣旨にご賛同いただき、応援していただいている会員です。

賛助団体は、当会の趣旨にご賛同いただき、応援していただいている企業等の団体です。

### ■ 年会費

正会員 個人：3,000円

畑会員 個人：2,000円 家族：3,000円

賛助会員 個人：2,000円  
団体：1口 20,000円～

ご寄付 一口：1,000円～

### ■ 振込先

#### ● 郵便振替の場合

「特定非営利団体法人 金田台の生態系を守る会」

口座記号番号：00160 - 0 -633771

口座名称：トクヒ)コンダダイノセタイトイケイマモルカイ

#### ● 他銀行などからの振り込みの場合

ゆうちょ銀行

店名：019 (ゼロイチキュウ) 店

店番：019

預金種目：当座0633771

「特定非営利活動法人 金田台の生態系を守る会」

口座名称：トクヒ)コンダダイノセタイトイケイマモルカイ



詳細は会のウェブサイトやFacebookページをご参照ください。「金田台の生態系を守る会」で検索してください。

<https://kondadaiseitaiki.jimdofree.com/>

## 【協力団体のご紹介】

金田台の生態系を守る会は、森林整備等において、つくば森林クラブ様、大和ハウス工業様、空地フィールドーズ様やその他個人有志の方々に、作業のご協力をいただいております、心より感謝申し上げます。



つくば森林クラブ様



大和ハウス工業様

「金田台の生態系を守る会」は、SDGsで目指す持続可能な社会の実現に貢献しています。



本冊子は、つくば市の「アイラブつくばまちづくり補助金」を利用して作成しています。

#### 【本冊子の作成メンバー】

高橋かよ子、藤倉誠、後藤美千代、田瀬則雄、村木祐介、村木巧 2022年7月初版発行



**NPO法人**

**金田台の生態系を守る会**

**Website: <https://kondadaiseitaikei.jimdofree.com/>**

**Facebook: 金田台の生態系を守る会**

**Mail: [info@kondadaiseitaikei.com](mailto:info@kondadaiseitaikei.com)**